猪高の森自然観察だより　9 月号

開催日時：2021年9月26日（日）
テーマ：秋の七草探し・秋のトンボ
残念ですが、上記の観察会は「緊急事態宣言発出および新型コロナウィルス変異株感染予防のため中止とさせて頂きました。

しかしながら、そんな人の社会の営みとは別に、季節は移り変わっていきます。ここ猪高緑地でも、セミの声がコオロギなどの秋の鳴く虫たちに代わりつつ、棚田では稲穂がこうべを垂れ始め、途切れることなく営みは進んでゆきます。（10月3日現在、最高予想気温　29℃　ツクツクホウシがまだ鳴いています。今年は異例の暑さが続いています。）

台風14号の影響でよい天気とは言い難いこの日、9月17日は

森の集会所　→　シダレザクラの里　→　こもれび池　→　ハンノキ湿地　→　井堀の棚田
→　井堀の大クス　→　畑　→　森の集会所
のコースを歩きました。（写真は別の日に写したものも含んでいます）

秋の花の代表は・・・

ここシダレザクラの里は数日前から咲き始めたヒガンバナが美しい！この花盛りは、10日間もかからずに終わってしまいます。「葉見ず花見ず」の別名は、葉と花が同時には出ないのでこの名前が付けられました。「彼岸花」は彼岸の時期に咲くから、「曼珠沙華（まんじゅしゃげ）」は赤い花を意味する梵語からつけられたといわれています（別の説もあります）。別名を数多く持っている花の代表ですので、興味のある方は調べてみるとよろしいでしょう。

秋の花の雰囲気は、夏の花とは違い、どこか清楚で、すがすがしい感じととらえてしまうのは私だけでしょうか？

ヒガンバナとオナガアゲハ

ツリガネニンジン（左）とワレモコウ（中）、ボントクタデ（右）。「ボントクとはポンツク（間抜けの意）の転」ヤナギタデ（ホンタデ）には辛みがあるが本種にはないからこの名がついたとの事。

この秋初めて「混群」を観ましたーこもれび池にてー

混群とは、８月ごろに子育てを終わった小鳥たちが、共通の天敵から身を守るために異なる種類ながら作る群れのことを指します。（少ない食料を探すためという説もありますが、両方と思っています。）秋から冬にかけて見られますので、鳥の観察を始めたい方は、この時期がおすすめです。

シジュウカラ（左）とコゲラ

この辺では、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロエナガ、コゲラなどが作ります。

この夏に咲いた花が実に成りつつあります

咲いた花は白かったのに、実は鮮やかなブルーだったり、思いがけない色の実を付ける樹や花たち、季節を通じ観察して覚えると、楽しいですよ。

サワフタギ（左）とクサギ（中）の青い実とウメモドキ（右）の赤い実

カクレミノ（左）とスズメウリの花（中）と実（右）はこれから色づきます

★棚田におすすめしたい風景

そのⅠ　稲穂が風にたなびき、トンボがその上を飛ぶ

名古屋の緑地ではまず見ることの出来ない里山の原風景です。10月には稲刈りを行います。

そのⅡ　ヒヨドリバナに集まるチョウ達

ヒヨドリバナに集うチョウたち。ツマグロヒョウモン♀（上左）、ツマグロヒョウモン♂（上中）は、メスの方が派手、ミドリヒョウモン♀（上右）とミドリヒョウモン♂（下左）は♂の方が目立ちます。種類によって、表現が違う！？ちなみに（下中）はキタキチョウ、（下右）はミドリヒョウモンとキタキチョウが写っています。（一部猪高の森で撮られてない画像があります。）

10月には出会いがあれば、アサギマダラが見られるかも知れません。

冬に向かって虫たちも準備を始めています

先月には幼虫だったカマキリやバッタ達も成虫になり、次の世代に引き継ぐ準備を始めたり、成虫のまま冬越しをしたり、それぞれに準備を始めます。幼虫のときは特徴がはっきりしない種類も、見分け易い時期になりました。

上の３点はクモの仲間。ナガコガネグモ（左）とコガタコガネグモ（中）は腹部の縞模様が大変美しいクモ。この仲間は縞の形と色合いで区別をします。（右）はワキグロサツマノミダマシ。薩摩（さつま）の実とはハゼの実の事、緑色の美しいクモです。

上の３点はカマキリの仲間。オオカマキリの♂と♀（左）、オオカマキリ（中）、コカマキリ（右）。コカマキリの特徴は、鎌の部分の内側に黒と白のスポットがあること。カマキリのオスはメスの存在を認識するのに、メスは、自分以外の動くものは全て食べ物！オスは交尾をするのに命がけで行うことになります。

そんなメスもこの秋に卵を産み一生を終えることになります。

カマキリの仲間で冬を成虫で越せる種類はありません。

子どもたちに人気のあるよく出会うバッタ達 3 点。ショウリョウバッタの♀（左）は日本で一番大きいバッタ、（中）はその名の通り、オンブバッタのオスとメス、（右）はイボバッタ。
このバッタ達も、冬を越すことは出来ません。

ツチイナゴ（左は成虫、中は幼虫）は目の下の涙の痕のような模様が特徴、クビキリギス（右）はかまれると痛いほど鋭い顎。両種とも成虫で冬越しします。

鳴く虫３種。アオマツムシ（左）は外来種、明治の頃に中国から帰化したという説が一般的ですが原産地ははっきりしない、とのことです。樹の上などにいることが多いとの事。（中）はササキリ、（右）はセスジツユムシ。この他にも、コオロギの仲間などがいて、耳を澄ませると結構にぎやかに演奏会を開いています。

他にも猪高の森にはこんな生き物たちもいました（ほかの季節にも出会える生き物を含みます）

コバノカモメヅル（左）とアズマカモメヅル（中）はつる性植物。カモメヅルの名は、対生する２枚の葉が、飛翔するカモメの姿に似ているからとか・・。（右）はコバノカモメヅルを観察（？）しているダイサギです。　　（棚田にて）

水辺などで出会えた花３種。コナギ（左）、イボクサ（中）、オモダカの仲間（右）静かな佇まいがぴったり。あまり、主張はしたくないようです。

前頁の３種は皆さんが良く知っている植物の若い果実です。皆、花が咲くのは８～９月です。わかりますか？（左）はヤマノイモ、むかごが付いていればわかったかも・・。（中）はイタドリ、すかんぽと言って小さい頃食べませんでしたか？（右）はウド、春先の若芽は美味しいですね。

（左）はミズヒキ、（右）はキンミズヒキ。同じミズヒキの名が付いていますが、（左）はタデの仲間、（右）はバラの仲間。水引って紅白でしたね。ミズヒキを下から覗くとちゃんと白が見えます。

なんでこんな所にと思う場所に咲いています。ニラの花は種がとんでくるのでしょうか？

この日は昼近くになって、雨が降り気味になりました。落ち着いて観察したかったなあ。

アメリカザリガニを捕まえたカワセミ（左）外来種の駆除に協力してくれています。（こもれび池にて）（中）はオジロアシナガゾウムシ、愛称はパンダゾウムシ、パンダムシ。クズの葉の上によくいます。成虫で冬越しをします。（右）のおしゃれな色合いはクロハナムグリです。

毎回、何か新しい発見があります

一緒に歩きませんか？

芸術の秋！ジカキムシ（エカキムシ）の秋！

次回は　10月24日（日）

テーマ：森の恵み探し

の予定です。

朝　　9:30～　　森の集会所集合です。

今年生まれた？
トカゲの幼体、尾の青色が美しい！